

2010 年度 鶴岡キャンパス研修報告書

慶應義塾大学大学院医学研究科
生理学教室修士課程 1 年
斉藤 陽一

2010 年 10 月 28・29 日の二日間、山形県鶴岡市にある慶應義塾大学先端生命科学研究所（IAB）で行われた鶴岡キャンパス研修に参加してまいりました。

鶴岡キャンパスでは農学・薬学・医学といった様々な観点からのシステムバイオロジーに特化した研究、またそれらの分野を繋げる研究を行っています。

研修は IAB 所長の富田勝先生による鶴岡キャンパスの役割の説明に始まり、学生による研究内容のプレゼンテーション、施設見学という流れで進んでいきました。

今回の研修では、鶴岡キャンパスならではの研究環境と、学生の研究に対する取り組み方が非常に印象的でした。

鶴岡キャンパスのすぐ近くには緑豊かな鶴岡公園があり、キャンパス内には温泉施設や宿泊施設が完備されています。このような最高の環境があるからこそ、研究に集中する事はもちろんのこと、様々な独創的なアイデアも生まれるのだなと感じました。

鶴岡キャンパスの学生には、社会貢献のためだけでなく自らの知的好奇心に突き動かされ自発的に研究活動を行っているという印象を受けました。

様々な研究をしている先生・学生がいるため、非常に幅広い範囲でのディスカッションができることが鶴岡キャンパスの活気の一因なのだと思います。

プレゼンテーションでは、新技術を活用したバイオマーカーの探索から、オイル産生微生物まで、普段の研究環境では見聞きする機会がないような興味深い話を聞かせていただきました。特にスパイダーシルクの研究については、私と同じくらいの年齢の学生たちが実用化に向けベンチャーを立ち上げたと聞き、自分も負けてはいられないと刺激されました。

今回の貴重な体験を、私自身の研究に対する取り組み方に生かせるように努力していきたいと思います。